多摩リハビリテーション学院専門学校

令和２年　自己評価結果

【大項目評価結果】

評価は４段階〔４：適切　３：やや適切　２：やや不適切　１：不適切〕

（１）	（２）	（３）	（４）	（５）	（６）
教育理念 目標	学校運営	教育活動	学生指導等	特別活動等	学修成果
3.51	3.36	3.43	3.50	2.70	3.26

（７）	（８）	（９）	（１０）	（１１）
学生支援	教育環境	学生の 受入れ募集	法令等の遵守	社会貢献 地域貢献
3.24	3.17	3.57	3.70	3.31

自己評価アンケート調査 2020 年 12 月実施、教職員 28 名／30 名（回収率 93.3%）

【小項目評価結果と大項目の詳細】

（１）教育理念・目標　【3.51／4.0】

評 価 項 目	平均
①　学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか)	3.75
②　学校における職業教育その他の教育指導等の特色は適切か。	3.64
③　社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	3.43
④　理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか。	3.21
⑤　各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	3.54

〔大項目の詳細〕

教育理念、教育目標は、ホームページで公開し、入学後に配布される学生生活ガイドブックにも記載され、新入生ガイダンスにて説明されている。「地域医療への貢献」という教育理念のもと、教育目標は、「１．『謙虚な気持ち』と『感謝の心』を育てる。２．助け合いやチームワークを基本とした医療福祉の精神を育てる。３．医療人に必要な体力を養い、自立と忍耐を身につける。」を掲げている。

また、石田理事長・学院長は、入学式での挨拶において、「学生生活を送るうえでの３つの心得」を述べている。これは、教育目標をわかりやすく学生に伝えているものであり、「１．常に『謙虚な気持ち』と『感謝の心』を持って行動する。２．いつでもきちんとした挨拶をする。３．在学中は、努力と辛抱の

期間とする。」としている。この 3 つの心得も、ホームページで公開し、学生生活ガイドブックにも記載されている。入学前の体験会では、職種説明が主な内容となっていることから、受験生や保護者に説明することが課題である。

令和 2 年は、新型コロナウイルス感染症の対策で、対話時間が短く、説明不足の感は否めない。例年、入学式の後に学科別の保護者会を開いているが、保護者を集める機会もなくなり、ホームページでのお知らせに終始している。

（2）学校運営　【3.36／4.0】

評 価 項 目	平均
①　目的等に沿った指導方針が策定されているか。	3.61
②　指導方針に沿った事業計画が策定されているか。	3.50
③　運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。また、有効に機能しているか。	3.21
④　就業、給与に関する規程等は整備されているか。	3.14
⑤　教務・事務等の組織整備等意思決定システムは整備されているか。	3.07
⑥　業界や地域社会等に対する法令遵守がなされているか。	3.54
⑦　教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3.79
⑧　情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3.04

〔大項目の詳細〕

教育目標に沿った分野別指導方針（学業指導、個人適性指導、社会性指導、健康安全指導、進路指導）は、ホームページで公開し、入学後に配布される学生生活ガイドブックにも記載されている。

学校の運営組織は系統化されており、学校法人理事会・評議委員会、広報委員会、学生生活向上委員会、就職委員会、同窓会委員会、学校評価委員会、教育課程編成委員会、教職員の質向上を促す『和敬清寂』委員会に分かれて運営されている。また、月ごとに教務事務連絡会議、学科長委員長会議、学科会議を行い、教職員の意志統一・意思決定を行っている。

年度初めには、教職員向けに昨年度の結果と本年度の目標を発表する機会を設けている。また、医療法人社団和風会の業務報告会にも参加しており、本校の収支報告、事業計画を発表する機会もある。

学校評価においても、自己評価、学校関係者評価、第三者評価（一般社団法人リハビリテーション教育評価機構）を行い、法令遵守に努めている。

令和 2 年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、緊急の役職者会議を数多く行い、学校運営の方向性を決めることができた。4 月に緊急事態宣言が出される中、社会的にテレワークが推奨され、教員にも一人 1 台のパソコンが貸与された。情報システム化も学校の担当職員と医療法人本部の応援もあり、一気に加速して進めることができた。遠隔授業には、オンラインシステムの Cisco WebEX Meetings、オンライン・オンデマンド配信のクラストリームを導入し、登校制限中も授業を進めることができた。PTOT3 年生には、国家試験対策として SATT のシステムを導入し、インターネットを通じて過去問題を行ったり、教員が問題作成に利用できるように整備した。

（３）教育活動　【3.43／4.0】

評 価 項 目	平均
①　教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	3.57
②　教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3.61
③　学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	3.64
④　キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。	3.43
⑤　関連分野の施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	3.50
⑥　関連分野における実践的な職業教育（見学実習・評価実習・総合臨床実習等）が体系的に位置づけられているか。	3.75
⑦　授業評価の実施･評価体制はあるか。	3.57
⑧　職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	3.39
⑨　成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	3.54
⑩　資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3.54
⑪　人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	3.11
⑫　関連分野における業界等との連携において優れた教員（専任・非常勤含む）を確保する等マネジメントが行われているか。	3.29
⑬　関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組みが行われているか。	3.21
⑭　職員の能力開発のための研修等が行われているか。	2.93

〔大項目の詳細〕

学科ごとの教育課程（カリキュラム）ならびにディプロマ・ポリシー（卒業までに身につけるべき能力）、学年ごとの到達目標は、ホームページ上で公開され、年度ごとに配布されるシラバスにも記載され、ガイダンス時に説明している。

職能団体である理学療法士協会･作業療法士協会･言語聴覚士協会等が主催する教員協議会等に積極的に参加し、学院内での情報共有、協会が意図するカリキュラム変更に合わせた内容の作成や見直しを行っている。教育課程編成委員会も開催し、病院のリハビリテーション責任者の意見も取り入れるようにしている。専任教員だけでなく外部講師（PT・OT・ST）の起用も検討が必要である。

学生に対しては、前期・後期定期試験終了後に、授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を各授業担当者へフィードバックしている。教員は授業の振り返りが行えると共に今後の授業の指導方法に役立てることができ、授業の質の向上に繋がっている。学生の非常勤講師に対する満足度が若干低い傾向にあることから、専任教員と非常勤講師との情報交換が課題である。

また、専任教員は、関連法人の病院・施設で働くリハビリ職の教育プログラム実施の一環を担い、実習施設の中核作りも行っている。

令和 2 年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、職能団体ではオンライン会議が主流となり、研修

会も中止するものが多かった。学校外で行われる臨床実習に行く場合には、2週間前からの健康・生活記録や本人・保護者の承諾書の記入、抗原検査や時間帯の変更に追われた。

（4）学生指導等　【3.5／4.0】

評 価 項 目	平均
①　基本的生活習慣の確立のため取り組みが行われているか。	3.46
②　学生の安全管理のための取り組み等（傷害保険、カウンセリング、発達障がいのある学生等への支援等）が行われているか。	3.64
③　学生・保護者からの相談体制が整備されているか。	3.54
④　進学・就職指導にかかる支援体制は整備されているか。	3.36

〔大項目の詳細〕

基本的生活習慣の確立のため、学生の遅刻・欠席時の報告書の提出を義務づけており、状況に応じ随時面談を実施している。令和 2 年3月末には、全ての学生に感染症対策講座を行い、検温・手洗い・マスク・教室の換気の確認を行った。

学生の安全管理のため、臨床心理士・公認心理師の資格を持つ心理カウンセラーが常勤で対応できる環境である。在校生だけでなく、卒業生のカウンセリングの受入れも行っている。

教員のメールアドレスは、学生は勿論、保護者へも開示しており、相談できる環境である。また出席状況が不良の学生や成績不良の学生には、学生の了承を得たうえで保護者に連絡をして状況の説明を行い、相談を行ないやすい環境を整えている。ご意見箱の設置もあり、学科担任だけでなく、相談する道筋は整備されている。

各学科に就職指導担当教員を置き、随時個別の相談や指導は行っているが、令和 2 年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、毎年行っている就職説明会は中止となった。施設の希望でオンライン相談会や単独での説明会で対応を行った。

（5）特別活動等　【2.7／4.0】

評 価 項 目	平均
①　クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか。	2.64
②　スポーツ大会、文化祭等を推進しているか。	2.75

〔大項目の詳細〕

令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、新入生対象の3学年合同親睦会（PT）、御岳山での新入生合宿（OT）、球技大会、文化祭としての『タマリハ博覧会』などの学校行事は中止せざるを得なくなり、クラブ活動も推奨することができなかった。三学科合同症例報告会は、例年ならば全学生対象に行うが、感染リスクから最終学年を対象に形を変えて行った。

感染対策を実施しながら、新入生に対するマナー講座、悪徳犯罪被害防止講座、年金講座、AED 演習、

最終学年に対する租税講座（所得税、確定申告など）は開催することができた。

（6）学修成果　【3.26／4.0】

評 価 項 目	平均
①　就職率の向上が図られているか。	3.39
②　資格取得率の向上が図られているか。	3.57
③　退学率の低減が図られているか。	3.25
④　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3.00
⑤　卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3.07

〔大項目の詳細〕

2019 年度の国家試験合格率は、作業療法学科が 100%（全国合格率 87%）、理学療法学科が 97%（全国合格率 86%）、言語聴覚学科が 62%（全国合格率 65%）となった。

2019 年度の退学率は、全国の専門学校の平均退学率が 14%の中、6%となった。2017 年度が 12%、2018 年度が 10%であるので減少傾向にある。

令和 2 年は、PT 学科所属の学生が、経済的支援が必要な女子学生を対象に審査される国際ソロプチミスト青梅の 2020 年度リジョナルプロジェクト「大学女子学生・専門学校女子学生支援金（夢を生きる賞）」を申請し獲得することができた。

（7）学生支援　【3.24／4.0】

評 価 項 目	平均
①　学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	3.54
②　学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3.43
③　課外活動に対する支援体制は整備されているか。	3.04
④　学生の生活環境への支援は行われているか。	3.14
⑤　保護者と適切に連携しているか。	3.21
⑥　卒業生への支援体制はあるか。	3.29
⑦　社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3.29
⑧　高等学校・大学等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。	2.96

〔大項目の詳細〕

学生への奨学金は、日本学生支援機構、東京都私学財団等の奨学金がある。また、高等教育の就学資金新制度（高等教育無償化）では、授業料等減免費用の支弁の対象校となることができた。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、経済的困難な状況に陥っている学生が学びを継続できるよう支援する「学生支援緊急給付金給付事業」の申請も行い、複数名の学生が支給された。

入試制度においては、入学金減額制度、入学金免除特別入試、学費後納制度、有資格者割引、兄弟姉妹・

子女入学金減額制度などの減額制度の実施を行っている。

就職支援として、最終学年を対象に就職活動講座を開催している。マナー講座、履歴書の書き方指導、模擬面接などを行っている。また、母体の医療法人社団和風会は勿論であるが、実習先の病院・施設に学校に来て頂き、就職支援を行った。

学生生活を有意義に送るためにインターネット環境整備、自動販売機の設置、ホットウォーターディスペンサー、学生からの意見を入れる投書箱の設置にて支援している。

卒業生への支援は、校友会（卒業生と教職員でつくる会）の企画で、研修会・勉強会を計画していたが、新型コロナウイルス感染症患者の増加した時期では開催することができなかった。

（8）教育環境　【3.17／4.0】

評 価 項 目	平均
①　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	2.96
②　実習施設について十分な教育体制を整備しているか。	3.14
③　防災に対する体制は整備されているか。	3.39

〔大項目の詳細〕

すべての普通教室には教室前方と中央に 2 台の大型ディスプレイを設置している。治療実習室や基礎作業室等では、壁に直接貼れるホワイトボードシートを学習に活用している。今年は、PTOT 教育環境整備事業を行った。1つは、筋電図等測定装置一式とし、筋電計、動作解析装置、足圧（座圧）分布解析装置を整備した。もう1つは、総合臨床医学使用装置一式とし、心電計、AED・AED トレーニングユニット、吸引器・吸引シュミレータ、心臓マッサージシュミレータ、骨筋・内臓のポケットエコー（画像）の整備を行った。

令和2年5月には、南館の防水工事とエアコンの大規模修繕を行った。また、12 月にはデイサービス施設を青梅市内に移転し、作業療法学科と令和 4 年度に開設する介護福祉学科の特別教室の改修工事を行っている。

例年、臨床実習前には臨床実習指導者連絡協議会を開催していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止とし、教員が個別に各実習施設と連絡を取る形となった。オンラインでの授業に対応できるように、パソコンや Wi-Fi 機器を数台そろえて、学生へ貸し出しできる体制を取った。インターネットの電波を安定させるため光回線への改善工事も行った。対面授業を行う際には、教室の教壇前や食事スペースとなっている南館・北館1階にアクリル板の設置を行った。

防災については、毎年1年生を対象に、後期の初めに青梅消防署と連携し、消防訓練を実施している。また、非常食や水などの常備することもできている。

（9）学生の受入れ募集　【3.57／4.0】

評 価 項 目	平均
①　学生募集活動は、適正に行われているか。	3.57

②　学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3.57
③　入学金・授業料等の学納金は妥当なものとなっているか。	3.57

〔大項目の詳細〕

学生募集活動は、高等学校や大学からの指定校推薦入試、推薦入試、AO 入試、一般入試を行っている。入試時期の前には必ず実績のある高等学校の進路指導室、大学のキャリアセンターへ訪問し、募集要項の説明を行っている。また、要望があれば高等学校へ出向き、模擬授業や希望者への説明を行っている。令和 2 年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、訪問ができない時期もあった。

体験会は、感染症対策（検温、消毒、アクリル板など）を行いながら、在校生の協力も得て、行うことができた。職種の特徴を生かした模擬授業や、教員や在校生との相談コーナーを設けている。また、各学科とも個別見学会にも対応し、言語聴覚学科では、社会人ニーズから「ST ナイトカフェ」を行っている。

入学金・授業料は、近隣の養成校と比較しても適切なものとなっている。

（１0）法令等の遵守　【3.7／4.0】

評 価 項 目	平均
①　法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3.75
②　個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3.64

〔大項目の詳細〕

法令および専修学校の設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。基準や申請で求められている情報はホームページ上で公開している。

個人情報保護に関しては、入学試験結果の個人情報資料をシュレッダーすることを徹底し、病院・施設での実習の際に実習指導者向けに作成する個人プロフィールを実習終了後に確実に回収することを行っている。また、学生には、各職種に課せられている守秘義務の重要性を教育し、実習前には再度、デイリーノートやデータの取り扱い、匿名での記載方法の徹底を指導している。

（１1）社会貢献・地域貢献　【3.31／4.0】

評 価 項 目	平均
①　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3.54
②　学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	3.07
③　地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。	3.32

〔大項目の詳細〕

地域の社会福祉協議会や自治体が主催する転倒予防講座、認知症予防講座、口腔ケア講座を積極的に受託している。また、東京都立羽村特別支援学校、東京都立多摩桜の丘学園にて外部専門家（教育支援員）

の役割を作業療法士、理学療法士、言語聴覚士として、それぞれの教員が担っている。

本校の教職員が担っている役割としては、全国リハビリテーション学校協会理事、東京都作業療法士会副会長、東京都言語聴覚士会理事、東京都医師会多職種連携連絡会議委員、東京都専修学校各種学校協会運営委員、青梅市生涯学習推進委員、青梅市商工会議所理事、PT・OT・ST 養成施設教員等講習会世話人、リハビリテーション教育評価機構委員等がある。

令和 2 年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、施設の貸出しを制限したほか、学生のボランティアとして青梅市生涯学習新緑祭の運営ボランティア、青梅市役所で行っている市民講座『いきいき健康講座』が中止となった。